



よつばちゃん だいじょうぶ？

臨時休校中、子どもたちはずっと会えないでいるよつばちゃんのことを心配していました。水をガブガブ飲むようになったり、フンフンと鼻息をたてながら呼吸したりするようになったよつばちゃん。その様子を映像で見た子どもたちは、暑さが辛いんだよと考えていきました。昨年、出会ったばかりの頃に比べると、よつばちゃんの毛も随分と長く伸びてい



ました。「本当は自分たちも毛刈りをしたいけど、私たちが登校できるようになるまで、苦しいまま我慢させておくことは嫌だな」と、畜産農家の方に毛刈りをしていただくことを決めました。

毛刈りを画面越しに見ていた子どもたちからは、「じっとしてるんだよ」、「もうちょっと。えらいね」、「すごい。こんなに毛が伸びていたんだ」というメッセージが届けられました。無事に毛刈りが終わって一安心です。

あれ？おかしいぞ！？

毛刈りを終えて涼しくなったはずと思いきや、依然としてよつばちゃんの体温は高い日が続いていました。子どもたちは、よつばちゃんの体温と小屋の中の温度を測りながら「学級園は日陰がないから小屋が暑いんだよ。日陰がある涼しい所に小屋を移動してあげようよ」と、小屋の移動を計画していきました。温度計で測って涼しい地面の場所を探したり、自分たちのいる教室から見える距離を考えたりしながら、小屋の引っ越しをしました。



よつばちゃんにも 自分たちにも 嬉しい家になりたいな

引っ越しを終えてぽっかりと空いた学級園。そこに新たな家を作っていくことに決めました。「よつばちゃんが走り回れる大きな家にしよう」、「日陰がある涼しい家にしよう」、「今年は2階建てにすれば日陰もできるし、自分たちも登って遊んだり、上からよつばちゃんを見たりできるよ」と新しい家の構想が膨らんでいきました。

そして、それを実現するために、現在、力を合わせて家作りを進めています。穴を掘って石で固定しながら頑丈な柱を立てる子、釘を何本も打ち付けて2階の床板を付ける子、新しい家に置くためのキッチンやテーブルを作る子など様々です。けれど、『よつばちゃんにとっても、自分たちにとっても嬉しい家』を目指して一人一人が自分にできることを頑張っています。新しい家の完成と、その家でよつばちゃんと一緒に生活していくこれからの毎日が、とても楽しみです。

